

政務活動記録簿

会派名	日本共産党
事業名	地方議員研究会「自治体病院経営を考える」(京都)
実施日	7月9日～10日
参加議員	平林千秋

1 東御市における課題と研修・調査の目的

東御市民病院の再編ネットワーク化の動きが具体的になっている中で全国的な動向と対処を考えようと今回の研究会に参加し、2日間にわたってみっちり学んだ。講師は城西大経営学部の伊関友伸教授。同氏は、1987年埼玉県庁入庁2004年4月から城西大学経営学部助教授、内閣府「公立病院に関する財政措置の在り方等検討委員会委員」、総務省「地域医療の確保と公立病院改革の推進に関する調査研究委員」、福祉経営博士。

2 経費

使途項目	経費の内容と内訳		金額(円)
調査研究費	交通費	¥26,830 (JRなど)	¥26,830
	受講料	¥60,000	¥60,000
	研修費 宿泊費	¥12,300 (政務活動費の充当なし)	¥12,300
広報費			
広聴費			
要請・陳情活動費			
会議費			
合計			¥99,130

※ 裏面に本事業に要した領収書その他支出を証する書類を添付のこと

3 実施概要 (視察箇所ごとに記載)

(No 1)

実施日時	7月9日～10日
視察場所及び部局等	地方議員研究会「自治体病院経営を考える」(京都)
視察事項	再編ネットワーク化の動きの全国的な動向と対処
報告内容	<p>主催＊一般社団法人・地方議員研究会</p> <p>東御市民病院の再編ネットワーク化の動きが具体的になっている中で全国的な動向と対処を考えようと今回の研究会に参加し、2日間にわたってみっちりと学んだ。講師は城西大経営学部の伊関友伸教授。同氏は、1987年埼玉県庁入庁 2004年4月から城西大学経営学部助教授、内閣府「公立病院に関する財政措置の在り方等検討委員会委員」、総務省「地域医療の確保と公立病院改革の推進に関する調査研究委員」、福祉経営博士。</p> <p>研修テーマは、初日に第1講義「公立病院関連質問のヒント——生き残りのために何が必要か」、第2講義「地域消滅を防ぐ——産業としての自治体病院を考える」。2日目は第3講義「意思看護師不足と地方議会改革」、第4講義「全国の自治体病院比較でデータに基づく議会質問虎の巻」。いずれの講義をかなり専門的な内容もあったが、東御市民病院をみていくうえで勉強になった。</p> <p>伊関教授は、新公立病院ガイドラインでは、単に経営・財務面から見るのではなく、経費削減とともに医療の質の向上による収益確保が強調されていること、これにかかわって機能評価指数による診療報酬算定がおこなわれることに着目し、医師及び職員の技能向上と加算取得を強調していることに注目した。市民病院でも地域包括ケア加算など収益向上の努力をしているが、まだ余地がありそうだ。また、講義では病院経営を把握するためのデータ収集の具体的な方向(公営企業年鑑や病院情報局の情報をインターネットで取得するノウハウ)も紹介してくれ、今後の研究に活用できそう。</p> <p>公立病院問題では検討すべき課題が多いが、今後多面的な講義を参考にしていきたい。</p>

(視察先の写真等がある場合は添付)

政務活動記録簿

会派名	日本共産党
事業名	議会会派合同視察【東京都大田区・町田市】
実施日	8月6日～7日
参加議員	平林千秋・窪田俊介

1 東御市における課題と研修・調査の目的

近年続けている東京都大田区議会と東御市議会の交流、意見交換の場。今回は大田区の ITC 教育の取り組みについて、学んだ。また、2日目の視察先の町田市では、引きこもり者支援体制の構築を全国で先駆けて行っている。東御市内でも課題となっており、先進地から学ぶもの。

2 経費

使途項目	経費の内容と内訳		金額（円）
調査研究費	バス借上げ (有料道路代含む)	@16,830×2名	¥33,660
	資料代等	@520×2名	¥1,040
	規定旅費 (宿泊、日当)	@16,300×2名	¥32,600
研修費			
広報費			
広聴費			
要請・陳情活動費			
会議費			
合計			¥67,300

※ 裏面に本事業に要した領収書その他支出を証する書類を添付のこと

3 実施概要 (視察箇所ごとに記載)

(No 1)

実施日時	平成30年8月6日(月) 13時30分～15時
視察場所及び 部局等	東京都大田区議会、教育委員会指導課 大田ふるさとの浜辺公園(ビーチバレー場)
視察事項	ICT教育の取り組みについて
報 告 内 容	<p>(1) 視察先概要</p> <p>(2) 視察事項について</p> <p>大田区教育委員会指導課から、ICT教育に関係する諸課題についてレクチャーいただいた。全国の自治体に関わる課題のため、モデル校事業の検証を行った大田区の経験を聞かせていただいた。</p> <p>また、交流のある大田区内の視察を行い、オリンピック関連施設などを視察した。</p> <p>(3) 所感・市政に活かせること</p> <p>大田区では平成27年度よりICT活用推進モデル校を設け、事業成果をうけて全域の小中学校にICT機器の導入を推進している。電子黒板、書画カメラ、タブレットPC(生徒・教員用)などが導入される。重要なのはこれらの機器を利用して、より「わかる授業」「関心を引き出す授業」を構築して行くことであるとのこと。教職員向けの研修、ICT支援員の配置など機材をそろえれば可能な事業ではない。この点で、地方では人的資源への補助がなければ無理を感じる。</p> <p>国の制度の動向などみながら市の取り組みも考える必要がある。大田区の経験が東御市の現場に活かせるものとする。</p>

(視察先の写真等がある場合は添付)

3 実施概要 (視察箇所ごとに記載)

(No 2)

実施日時	平成30年8月7日(火) 午前10時～午前11時30分
視察場所及び 部局等	東京都町田市「町田市議会」
視察事項	ひきこもり者支援体制推進事業について
報 告 内 容	<p>(1) 視察先概要</p> <p>(2) 視察事項について</p> <p>事業施行までの経過について ひきこもり等の現状・実態把握について 福祉、保健医療、教育、就労等サポートのネットワーク構築について 事業実施による成果 今後の課題と取り組み</p> <p>(3) 所感・市政に活かせること</p> <p>町田市は2012年からの5カ年計画の重点事業としてひきこもり者支援体制の推進を立てている。</p> <p>東京都の調査と自身の実態調査のもと約700人の若者のひきこもり者が存在すると推計している。関心があったサポート体制の構築について、町田市は都の福祉事務所などがあつた経緯から、人材や拠点の確保に可能性があつたようだ。とはいえ、地道な地域住民とのコンタクトがなければ、総合的なひきこもり者とその家族をサポートする体制の必要には迫ることができないと考える。</p> <p>近年の8050問題など、東御市でも顕在化してきたこの課題に、少なくとも上小圏域でサポートできる体制がほしい。引き続き町田市の取り組みを注視したい。</p>

政務活動記録簿

会派名	日本共産党
事業名	議会会派合同視察【新潟県十日町市】
実施日	平成30年8月23日(木)
参加議員	平林千秋・窪田俊介

1 東御市における課題と研修・調査の目的

地域活性化及び地域づくりの手段として認識されてきた東京藝術大学との域学連携事業については、平成27～29年度の3年間モデル事業(委託事業)として、御牧ふれあいの郷づくり協議会において実施されてきましたが、平成30年度からは地域が主体となって進めることを前提に、更なる地域活性化及び人材育成の推進を目的として、地域が自立し運営できるよう補助金の交付を行うこととなった。

については、「大地の芸術祭の里」として里山の魅力を世界に発信しようと先進的に事業実施している「大地の芸術祭」(3年に1度開催)の取組みを現地視察するとともに、これまでの取組み実績、地元の反応及び今後の展望について参考にすることを目的に視察研修を実施した。

2 経費

使途項目	経費の内容と内訳		金額(円)
(該当項目に○)	バス借上げ (有料道路代含)	実費額@7,022 × 2人	14,044-
調査研究費	資料代	@4,000 × 2人	8,000-
研修費	謝礼	@184 × 2人(視察謝礼)	368-
広報費	日当	@2,200 × 2人	4,400-
広聴費			
要請・陳情活動費			
会議費			
合計	@13,406 × 2人		¥26,812-

※ 裏面に本事業に要した領収書その他支出を証する書類を添付のこと

3 実施概要 (視察箇所ごとに記載)

(No 1)

実施日時	平成30年8月23日(木) 午前10時～11時30分
視察場所及び 部局等	新潟県十日町市役所 産業観光部観光交流課、議会事務局
視察事項	「大地の芸術祭の里」として里山の魅力を世界に発信するまちづくりについて
報 告 内 容	<p>(1) 視察先概要</p> <p>(2) 視察事項について</p> <p>地域活性化の先進事例となっている「大地の芸術祭」について、行政の支援はどうしているのか。当市でも、北御牧地域の「天空の芸術祭」が3年を経た今後の取組みをどうするか試行錯誤している。規模は違えどヒントを求めて視察した。</p> <p>(3) 所感・市政に活かせること</p> <p>「大地の芸術祭」のスタート時は県のリーダーシップと財政支援で施設整備が進められた。近年は県の補助はなく、国と市町村負担などが半分、協賛金と事業収入で半分といった構成になっている。</p> <p>その間、地域住民との協働を徐々に広げていき、芸術祭に何らかの形で参加する集落は110にもものぼる。地域とその暮らしに対するファンを獲得しながら、限界集落化を食い止める模索が続いている。</p>

(視察先の写真等がある場合は添付)

3 実施概要 (視察箇所ごとに記載)

(No 2)

実施日時	平成30年8月23日 午前11時30分～
視察場所及び 部局等	新潟県十日町市内
視察事項	大地の芸術祭「越後妻有アートトリエンナーレ2018」
報 告 内 容	<p>(1) 視察先概要</p> <p>(2) 視察事項について</p> <p>以下の拠点施設視察や作品鑑賞、住民との交流を行った。 芸術祭の拠点施設・現代美術館キナーレ、古民家を再生させた「うぶすなの家」での集 落の人たちによる食堂、廃校舎を使った作品「最後の教室」</p> <p>(3) 所感・市政に活かせること</p> <p>集落の古民家を利用した「うぶすなの家」では、地元食材の料理を食べた。同時にそ こで働くのは集落の女性達であり、この取り組みへの思いを昼食をとりながら聞くこと ができた。</p> <p>芸術祭を通じて多くの人が訪れてくれるようになったが、やはり人口減少はとまら ず、いまの取り組みを継承できるようにしたい、と語っていた。</p> <p>越後妻有地域の各地に作品が展示されており、一日ですべて回れる規模ではない。半 日足らずで回った限りでは、東御市に比べても高齢化、山林・田畑の荒廃は深刻に思え た。廃校舎を、まるまる作品にするなど、思い切った行為も、地域の深刻さからすれば 納得感がある。</p> <p>アートを契機に、サポーターなど地域と外部のつながりを作り、あらたな価値観も作 り出している。漠然と活性化の先進例として想像していたが、その先は険しそうだ。東 御市での取り組みにおいても、参考にしながら、我々自身が地域の価値、可能性を見出 していかなければならないと考えた。</p>

政務活動記録簿

会派名	日本共産党
事業名	第45回市町村議会議員研修会 in 長野
実施日	11月12日～13日
参加議員	平林千秋

1 東御市における課題と研修・調査の目的

記念講演 中山徹・奈良女子大・大学院教授による「自治体はどのような少子化対策をすすめるべきか」、寺島渉・元飯綱町議会議員による「住民自治の根幹としても議会力・議員力の発揮へ」の聴講。

2 経費

使途項目	経費の内容と内訳		金額 (円)
調査研究費	交通費	¥4,580	¥4,580
	受講料	¥30,000	¥30,000
	資料費	¥1,540 (書籍購入)	¥1,540
研修費			
広報費			
広聴費			
要請・陳情活動費			
会議費			
合計			¥36,120

※ 裏面に本事業に要した領収書その他支出を証する書類を添付のこと

3 実施概要 (視察箇所ごとに記載)

(No 1)

実施日時	11月12日～13日
視察場所及び 部局等	第45回市町村議会議員研修会 in 長野
視察事項	「住民自治の根幹としても議会力・議員力の発揮へ」
報告内容	<p>主催*自治体研究所</p> <p>初日の記念講演 中山徹・奈良女子大・大学院教授による「自治体はどのような少子化対策をすすめるべきか」、寺島渉・元飯綱町議会議員による「住民自治の根幹としても議会力・議員力の発揮へ」の講演は非常に示唆に富み、参考になった。</p> <p>中山教授の講演は、子ども子育て支援新制度実施後の政府の動向の特徴とともに新たな課題となっている幼児教育無償化問題に焦点を当てたもの。子ども子育て新制度は、大きくは、子ども子育て支援における公の責任を縮小し民間の参入を容易にするもの。その中でも児童福祉法24条で市町村の保育実施義務は確保されており、この立場からの自治体の対応が求められるとの強調は、東御市にとっても重要な視点となっていると感じた。幼児教育の無料化は、そもそも消費税増税と抱き合わせという根本問題がある。これを梃子に認定こども園化を促進する道が開かれることにもなる。実施に当たって慎重な検討・審査が必要だと感じた。</p> <p>寺島講演は、飯綱町の実践例から議会が執行部の追認機関から、議会の執行部監視機能を強化するとともに、議会としても政策提言力を発揮する議会力・議員力の強化を提起したもので、東御市における議会活性化に向けて参考になるものだった。議員サポーター制度をつくり住民の力を借りながら、議会での調査、議員間討議をへて町に政策提言する仕組みを作っている経験は参考になる。</p> <p>研修会2日目は分科会で、石川満・玉住民自治研究所員による「介護保険・医療保険制度の現状と課題」を受講した。現在の医療・福祉政策は介護保険と医療保険を連動させる形で推進されている。地域医療構想で病床再編などにより慢性期の人々を介護保険に移し、さらに在宅に誘うという政策的方向となっている。講演は政府の政策動向をしめし、国民が必要な医療・介護サービスを楽しむことができるようにするには都道府県・市町村の社会福祉・社会保障の在り方について総合的な研究と取り組みが必要で、この点を踏まえて国や地用行政に迫っていくことが求められる強調していた。なかなか大きな課題だが、取り組んでいきたい。</p>

政務活動記録簿

会派名	日本共産党
事業名	議会報告発行、配布
実施日	平成31年2月20日～
参加議員	平林千秋・窪田俊介

1 東御市における課題と研修・調査の目的

3月定例会に提案される湯の丸高地トレーニング用特設プール関連予算と事業の今後について、住民の関心に応えられるよう予め広報をおこなった。

2 経費

使途項目	経費の内容と内訳		金額（円）
調査研究費 研修費	材料費	¥9,560	¥9,560
	印刷代	¥13,580	¥13,580
	折込料金	¥24,883	¥24,883
広報費			
広聴費			
要請・陳情活動費			
会議費			
合計			¥48,023

※ 裏面に本事業に要した領収書その他支出を証する書類を添付のこと